

一般質問


本員
竹 議

- 一、定住人口増大について
 二、18年・19年度風水害の対応について

質問

答 弁

一、本市は炭鉱閉山後、人口は降下の線をたどっており、若者は流出するので必然的に高齢化率は上昇しております。人口を増加していくためには、言うまでもなく社会増、つまり、市外の方々を市内に転入していただくか、出生率を上げて市外に流出するのを防ぐかだと思います。今後、定住人口増大に向けた住宅対策や雇用対策について、市長はどのようにお考えなのか伺います。



二、市道の災害箇所はまだ紅白のポールが立ったままの箇所を大分お見受けいたすところがございます。そういった災害箇所はそのままにしておかれるのか伺います。

他に、耕作放棄地対策について質問いたしました。

一、市内への転入を促進し、転出を抑制して定住化を促進することを目的として、この2月に定住促進基本計画(計画期間平成20～23年度)を策定した。この計画は、住宅対策と産業振興及び雇用対策を柱としており、他地域の事例等も参考にしながら、現在の市の施策を総合的に調整してインパクトのある思い切った施策を打ち出してまいりたい。

二、ご指摘の箇所は、災害の補助対象やほかの補助事業についても対象にならず、市単独の災害応急費や道路維持費で対応するしかない。厳しい財政状況ではあるが、これらの被災箇所については、予算の範囲内で緊急性等を考慮しながら、順次施工していきたいので、いましばらくご注意をお願いしたい。

一般質問


谷 員
板 議

- 一、水産行政について
 二、プルサーマルその後の動向は

質問

答 弁

一、新生松浦市の総合計画において、基本方針の冒頭に「地域特性を生かした既存産業の振興と充実」ということを掲げられていた。水産独自の振興策としては、平成18年6月に生産から流通、海の資源の活用等水産業全般にわたって振興構想をうたった「水産振興ビジョン」を策定したが、20年度の予算を見ると昨年の当初予算との比較で半減されている。市長はこの水産ビジョン計画を具現化していくためにどのような考えを持っておられるのか。

二、(1)本件については2年前にも質問し、合併当初には全協等を開催し協議を行った。しかしながら、それ以降はプルサーマルの「プ」の字も出てこない。鷹島の住民からは「プルサーマルはどのようなものか」と度々問われるが、今現在どのような状況になっているのかお聞かせ願いたい。(2)また、この計画には反対の決議をしているが、もし導入が決定した場合、松浦火電の時のように有事の際の風評被害等に対し、松浦市民、漁民に対して補償の検討はできないのか。

一、大変財政が逼迫していることから、総合計画、行政改革、財政健全化等を基本に、所得や生産性向上につながる事業を優先して予算措置をさせていただいた。水産業は本市の基幹産業であることを踏まえ、今後、予算の肉付けをしていかなければならないが、6億円を超す財源不足をきたしていることもご理解いただきたい。今後とも、地域の発展につながる予算編成に心がけてまいりたい。

二、(1)唐津市から佐賀県に対して要望があっている7項目について、唐津市で最終案をとりまとめ、現在、佐賀県と事務レベルで調整中と伺っている。(2)風評被害に対する補償の検討については7項目の中に入っており、今後調整されるので見守りたい。また、住民不安があることは十分承知しているところであり、鷹島肥前大橋によって唐津市と陸続きになることから、新たな取り組みができるのではないかと考えている。